

# グローバルヘルスにおける 新型コロナウイルス対策と国際協力

## 新たな日本の 戦略的パートナーシップに向けて - JICAの視点 -

瀧澤 郁雄

JICA人間開発部

審議役 兼 新型コロナウイルス感染症対策協力推進室長

# アウトライン

- JICAによる新型コロナウイルス感染症への対応
- パートナーシップの好事例
- 新たなパートナーシップの模索

# Disclaimer

- JICAでCOVID-19にかかる国際協力の実務を担当する立場
  - 当事者目線、客観性が低い
- 現在進行形、事態は常に変化
  - スライド作成（10月）時点の情報、分析弱い

# JICAの対応：

## 実施中プロジェクトを通じた迅速な協力（1～2月）

- 需要の急増、供給の不安定化、国際輸送網の混乱等があいまって必須物資（感染防御資材、検査試薬、医療機器等）の世界的な不足が顕在化。
- JICAは、技術協力相手機関の対応能力向上のための迅速支援（必須物資の供与、ワークショップ開催等）
- 緊急時においても各国の主要関係者と対話ができる日ごろ培った信頼関係（パートナーシップ）が、迅速な対応を可能に。



ベトナム NIHE（2/7）



モンゴル保健省（2/20）



ミャンマー-NHL（2/25）

# JICAの対応：

制約の拡大：渡航措置、退避、国内対策の優先...（3月～）

## • 渡航措置

- 行動制限、国境封鎖、現地医療事情、緊急移送等への配慮
- 2月28日～ 短期渡航の延期
- 3月17日～ 協力隊員、一部専門家・随伴家族等の一時帰国
- 3月28日～ 関係者一時帰国の拡大
- 現地滞在者：約6,200人（3月初） → 約500人（6月末）  
（7月以降、渡航再開）

## • 感染対策

- 2月21日～ 時差出勤・在宅勤務の勧奨
- 緊急事態宣言中 原則在宅勤務（リモート対応）

## • 国内対策の優先、世論への配慮

- 専門家人材の確保、物資調達での配慮
- 「国内が大変なときに...」

# JICAの対応：

## 協力拡大へのドライブ（4月～）

- 4つの挑戦（研究会の組成：4月）
  - ポスト・コロナの世界における国際協力
    - 世界の構造的変化に対応した国際協力のあり方
  - コロナ対策と健康・医療協力
    - 各国比較に基づく有効なコロナ対策のあり方
  - Withコロナ・ポストコロナ時代のJICA事業
    - 人の移動の制約等を前提とした革新的な援助のあり方
  - コロナ禍におけるJICA海外協力隊
    - 国内に待機する協力隊人材による社会貢献のあり方
- 命を守る協力の推進（資源配分の見直し：7月）
  - 保健医療分野協力の拡充
  - 4つの柱（診断・治療体制の強化、研究・警戒体制の強化、予防の強化、強靱なUHCの実現）
  - 新型コロナウイルス感染症対策協力推進TFの設置（8月）
  - 新型コロナウイルス感染症対策協力推進室の設置（10月）

# JICAの対応：

現時点（10月末）までの主な協力実績

- 経済活動の維持・活性化のための緊急円借款：
  - 6件、**2,200億円**
- 感染症対策・医療システム強化に繋がる円借款：
  - 4件（4月以降承諾）、**304億円**
- 災害復旧スタントバイ借款の適用
- 感染症対策（水・衛生分野含む）・医療システム強化に繋がる無償資金協力：
  - 4件（4月以降承諾）、**89億円**
- 感染症対策（水・衛生、栄養・食料分野含む）・医療システム強化に繋がる技術協力：
  - 401件（4月以降執行）、**55億円**
  - 緊急的物資支援（10月末時点引渡済）：37か国

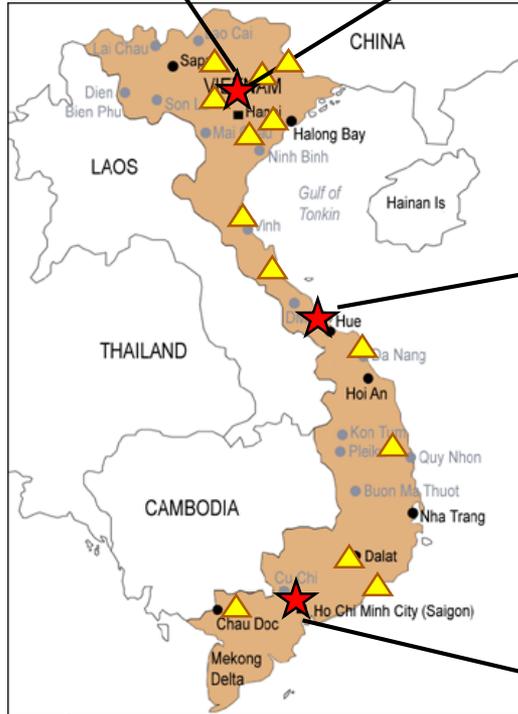
# 相手国とのパートナーシップ

ベトナムの事例：チョーライ・バックマイ・フエ病院、国立衛生疫学研究所

国立衛生疫学研究所 (NIHE)



バックマイ病院



フエ中央病院



チョーライ病院



JICAが協力した中核病院



JICAが協力した地方病院

## 1. 中核病院の整備

1970年代以来、  
3大中核病院整備に協力。  
**新型コロナ患者を適切に治療。**

(ECMO、人工呼吸器等の供与で機能強化)

## 2. 地方病院整備・人材育成

中核病院による  
地方病院の強化に協力  
中央から地方へ協力成果の拡大。

(院内感染対策の技協)

## 3. 検査・研究能力強化

SARS, 鳥インフルの教訓から、  
ベトナム初のBSL3ラボを整備。  
**新型コロナ検査で中核的役割。**

(検査キットの供与で機能強化)

# 相手国とのパートナーシップ

ガーナの事例：野口記念医学研究所

ガーナにおける新型コロナウイルス感染症

最初の感染者：3月11日 → 10月16日現在：感染者累計47,173人（死者310人）

**PCR検査数：週2万件（ピーク時）、8割が野口研**

第三国研修で西アフリカ11か国の人材育成にも貢献

（※ケニアKEMRIは国内5割を担当、ソマリアからも検体受入れ。コンゴ民INRBは国内9割を担当）

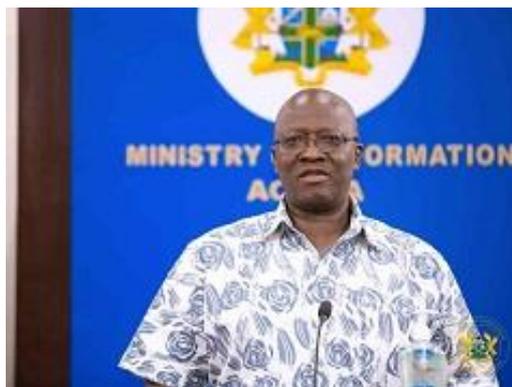
～ 積年の支援が効果を発揮 ～

安全かつ効率的な検査環境



先端感染症研究センター  
（無償資金協力、2019年3月開所）

シフト制・24時間体制で対応する優秀な人材  
革新的取組\*でアフリカをリード



アンポフォ ウイルス部長  
（東京医科歯科大で博士）



アバナ主任調査員助手  
（帰国研修員）

\*複数の検体を一緒にPCRにかけ、陽性の場合のみ1つ1つ確認検査を行う手法（プール化検査）を野口研が導入し、WHOが好事例として他国に紹介。試薬類を節約しつつ検査数の増加が可能。

# 相手国とのパートナーシップ

## 帰国研修員等の事例

JICA新型コロナ対策特設ページ (<https://www.jica.go.jp/COVID-19/ja/index.html>)



### マダガスカル

元JICA事務所現地職員のヴォアリ水・衛生大臣が、協力隊員が作成した手洗いソングで国民を啓発。

コミュニティ開発隊員（2010年）が現地人気歌手とのコラボで作成したもの。



### ウガンダ

JICAの課題別研修で院内感染対策を学んだモーゼス医師が、新型コロナ患者受け入れ指定病院のエンテベ病院長として陣頭指揮。

技プロの支援によるカイゼンも活かし、医療資源に乏しい途上国で最優先の院内感染の防止に注力。

### ケニア

ジョモケニアアッタ農工大でABEプログラム1期生のカリウキ技官らが、人工呼吸器の開発に着手。

太陽光電源で、部品の85%を国内調達。同大ではウェブ上での感染トレンド予測システム等も開発。



### マレーシア

兵庫県こころのケアセンターで研修を受けたヌラシキン保健省主席調整官（精神保健）らは、NGOと協力して「こころのサポートホットライン」を開設。

市民から寄せられる様々な相談に、研修成果を活かして対応。



# 民間企業等とのパートナーシップ

- ウガンダ サラヤ株式会社
  - JICA民連事業を活用して手指消毒用アルコールの現地生産を開始
  - 患者受入れ指定病院や空港検疫等にアルコール手指消毒剤を供給（JICA支援）
- ミャンマー 北島酸素
  - JICA民連事業を活用して酸素の現地生産を開始
  - 患者収容病院に酸素を供給
- バングラデシュ イースト・ウェスト大学病院
  - JICA海外投融資を活用して現地に病院を建設（シップヘルスケアホールディングスとバングラデシュ人医師の合弁会社）
  - 6月に開院、患者を受入れ

# 新しいパートナーシップの模索

- 日本の先駆的技術・知見の活用

- ケースマネジメントの改善
- 遠隔医療技術の適用
- 検査・検疫の強化

→ 研究開発部門、ビジネス部門とのさらなる連携

- 国際的協調枠組みとの連携

- 新型ワクチンの普及

→ 国際アクターとのさらなる連携

パートナー、募集中！